

大阪大学未来基金

「外国にルーツを持つ子どもたちの支援環境充実事業」のご案内

本センターの取り組みの充実を図るため、「外国にルーツを持つ子どもたちの支援環境充実事業」基金を立ち上げました。教員派遣プロジェクト、NPO法人活動支援プロジェクト、グローバル企業-外国人就労者の子どもたち支援プロジェクト、外国にルーツを持つ子どもたちへの支援に係る教育・研究活動、学生・地域の人びと・関係団体等が協働する環境の醸成などに活用させていただきます。何卒、本事業の趣旨にご賛同いただき、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

<https://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp/project/derc>



アクセス・お問合せ



住 所 〒562-8678
大阪府箕面市船場東3-5-10
大阪大学 箕面キャンパス内

電 話 072-730-5094
※勤務日不定期のため、不在の場合は、
お問合せフォームからご連絡ください。

メール contact@derc.hmt.osaka-u.ac.jp



<https://derc.hmt.osaka-u.ac.jp/>

阪大 ふくふくセンター

外国にルーツを持つ子どもたちの
学びを支える



阪大ふくふくセンター
Osaka Univ. Diversity and Community
Engagement Research Center

大阪大学大学院人文学研究科附属
複言語・複文化共存社会研究センター
Diversity and Community Engagement
Research Center (DERC)

目の前にいる子どもを
 〈日本語ができない子ども〉
 として見ますか。それとも
 〈複数のことばと文化を持つ可能性のある子ども〉
 として見ますか。
 子どもの可能性を奪わない社会を作っていく責任が
 私たちにはあるのです。

多文化化が進む日本では、言語や文化的背景が多様な子どもが増加しています。この子どもたちは、制度面の壁、母語・母文化の喪失、アイデンティティの揺らぎといったさまざまな課題に直面しています。

阪大ふくふくセンターが置かれている箕面キャンパスは、25の専攻語を有し、言語文化・地域研究・語圏学を専門とする教員や学生が在籍しています。私たちはこれまでの経験を活かし、外国にルーツを持つ子どもに関わる支援活動や教育研究活動により、「複言語・複文化の共存」を当たり前と思える社会の構築を目指します。

業務内容



1 支援活動の推進

- ・箕面キャンパスにおける、外国にルーツを持つ子どもの支援や教育の相談窓口を一元化し、地域社会や地方自治体、教育機関、NPO・ボランティア団体等にとっての利便性を高めます。
- ・活動に関心を持つ学生・卒業生・教職員を「メディエーター」として登録し、必要とされる支援内容等とのマッチングを経て各現場へ紹介するとともに、現場の実情を把握します。

2 研究・教育活動の推進

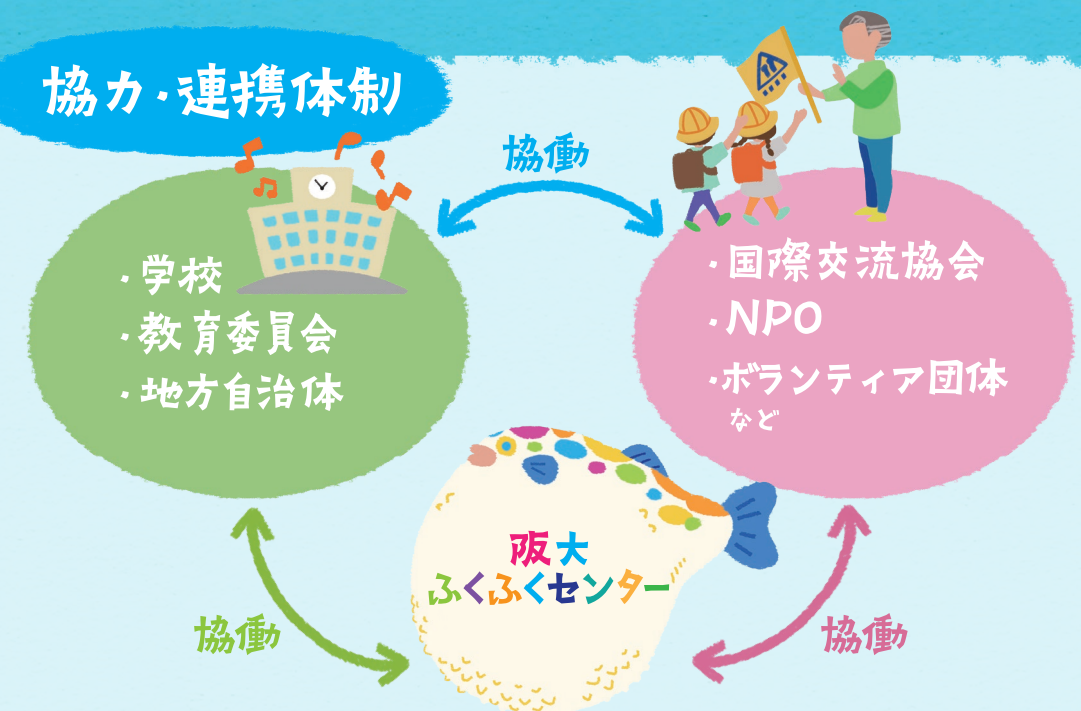
- ・メディエーターに対する登録説明会やフォローアップを実施し、言語や文化が異なる人々の間を仲介する力を育てます。
- ・活動の成果や課題を取りまとめ、講演会や研究会を開催します。
- ・国内外の研究・教育組織との情報共有や共同研究を進め、課題の解決を図ります。

3 連携体制の構築と提案・提言

- ・自治体、教育機関、NPO・ボランティア団体等との協力体制を構築するとともに、大阪大学内の関係機関との連携・協力によるデータ収集や課題の把握を担います。
- ・学術的見地から立って、複言語・複文化共存社会に向けた教育の在り方や行政の進め方を提言し、学区や自治体の枠組みを超えた仕組み作り等々に貢献します。



協力・連携体制



協働を希望する 団体の方へ



外国にルーツを持つ子どもたちが在籍する学校・自治体・支援団体等からのお問い合わせをお待ちしています。

メディエーターに なりた方へ



大阪大学に在籍する学生(学部生・院生・留学生)・教職員(正規/非正規を問わない)または大阪大学・大阪外国語大学を卒業・修了した方にお申し込みいただけます。

※上記2次元バーコードよりアクセス頂き、応募フォームよりお申し込みください。

メディエーターの声

私は大阪府内某市で、外国にルーツを持つ子どもたちが公教育で学ぶための支援を行いました。計4校で活動をさせていただきましたが、それぞれの学校が求める役割に順応しながら授業を作っていくことにやりがいを感じました。私にとって海外の文化を学ぶ機会を得られるだけでなく、子どもが困っていることを一緒に解決することができる貴重な時間でした。この活動がより広まって、より多くの人が生きやすさを感じる社会になることを願っています。

(大阪大学外国語学部フィリピン語専攻卒業 佐藤 南海)

子どもたちが自分のルーツの国の言語・文化について学ぶことは大切なことだと思います。私は、2年間、小学校の母語・母文化クラスでベトナム語の講師を務めました。子どもに学校でベトナム語をたくさん使ってもらえるよう、先生方と連携し、学習計画や教材を作成しました。これは私にとって、子どもの存在に励まされながら改めてベトナム語・文化について学ぶ好機となりました。阪大ふくふくセンターができたことで、このような活動に参加する学生の輪が広がっていくことを嬉しく思っています。

(大阪大学大学院人文学研究科日本学専攻 田中 倫)

